

共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



16

登山 万佐子

低出生体重児(未熟児)の家族会の活動を始めて8年。

保健所、医療機関、教育機関、地域の子育て団体などたくさんの方々に支援していただきました。中でも、子どもたちの笑顔が輝くのが学生のお兄さん、お姉さんたちと遊んでもらうときです。

2009年、劇場で座っているのが難しい子にも気兼ねなく人形劇を見せてあげたいと、福岡こども短期大(福岡県太宰府市)に相談しました。

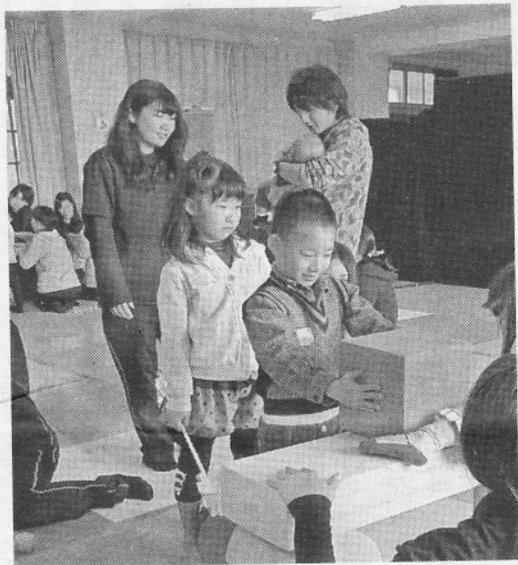
以来、毎年のように保育士を指す学生さんたちが人形劇を見せてくれます。遊んでもらったり、一緒にお弁当を食べたりの楽しい1日。子どもたちは親のそばを離れ、学生

学生たちの支援感謝

さんにくっついていきます。観劇会をきっかけに、お花見会やクリスマス会にもたくさんのお学生さんが来てくれるようになりました。企画から

加わって、読み聞かせやダンスを披露してもらったことも。ボランティアの学生さんたちが来てくれた日は、大きくなっただけよかったら、大きな子に会えたらいいなと、下の子を気にせず大はしゃぎです。

北九州市や福岡県柳川市でそれぞれ年2回開くサロンには、看護師や言語聴覚士を指す学生さんが先生と一緒にボランティアで来てくれま



今年1月の観劇会で、ボランティアの学生と触れ合う子どもたち(写真の一部を加工しています)

す。柳川市では毎回、柳川リハビリテーション学院言語聴覚学科の約20人が来て、半分が子どもの相手をし、半分が親の輪に加わります。学生さんたちは親の話にじっと耳を傾けながら、いろいろなことを感じていくようです。福祉の道に進んだきっかけを振り返り、感じたことや将来に向けた決意を涙ながらに話して

くれた学生さんもいます。家族会のイベントは、早産で小さく生まれた子どもたちと、正期産で生まれたきょうだいたちが一緒に参加します。小さな子どもと遊ぶのは初めてという学生さんも多いですが、赤ちゃんから高校生までの相手をしてくれます。

中には、教科書通りの発達ではない子、身体に障害がある子、酸素ボンベを携帯しながら動き回る子もいます。鼻のチューブからミルクを注入

する場面はおそらく初めて見ることでしよう。最初はどう接したらいいか、戸惑う学生さんも多いかもしれません。

でも、子どもたちを笑顔にしようとして一生懸命に考え、遊んでくれます。その姿にはいつも頭が下がります。小さく生まれた子どもとの接し方を、きょうだいたちから学んだという感想もありました。きつと教科書にはないことを学んでくれているはずですよ。

何よりも学生さん自身がとびきりの笑顔になることがうれしいです。家族会でのボランティアをきっかけに就職先を決めたという報告も聞きました。彼らが社会に出たとき、幼稚園や保育所、療育施設、病院で、小さく生まれた子どもたちと家族の心強いサポートとして活躍してくれると信じています。(Nつ子クラブ、カンガルーの親子代表、福岡県筑紫野市)